

ウナギ目巨大仔魚 *Thalassenchelys* 属の2種は  
オキアナゴ属の *Congriscus megastomus* と *C. maldivensis* である

○ 張 成年・柳本 卓・小西光一 (水研セ中央水研)・黒木洋明・(水研セ増養殖研)・  
上野康弘 (水研セ水工研)・高橋正和 (水研セ瀬水研)・大河俊之 (高知水試)・  
猿渡敏郎 (東大大気海洋研)・酒井恭平・望岡典隆 (九大院農)

【目的】1975年にレプトセファルス幼生を基に記載された *Thalassenchelys* 属の2種 (*T. coheni* と *T. foliaceus*) はその巨大さと特異的な形態で知られるが、親魚種だけでなく所属する科すら不明であった。我々はこれら2種の親魚種を特定した。

【方法】北太平洋西部及び中部で採取したプランクトン標本から *T. coheni* 42個体及び *T. foliaceus* 1個体を抽出した。オキアナゴ *Congriscus megastomus* 13個体は駿河湾、伊勢湾、土佐湾で漁獲されたものである。仔魚の筋節数、オキアナゴの脊椎骨数を計数した。これらの標本の筋肉からDNAを抽出し、ミトコンドリアDNAのCOI遺伝子の部分塩基配列を決定した。インド洋のオキアナゴ類 *C. maldivensis* の塩基配列情報は豪州連邦科学産業研究機構CSIROから提供された。

【結果及び考察】分析した *T. coheni* のCOI塩基配列はデータベースの *T. coheni* 配列及びオキアナゴ *C. megastomus* の配列とほぼ一致した。*T. foliaceus* の配列は *C. maldivensis* とほぼ一致した。*T. coheni* と *T. foliaceus* の筋節数はそれぞれ152-158及び143であり、*C. megastomus* と *C. maldivensis* の脊椎骨数と符合した。以上の結果は *T. coheni* と *T. foliaceus* がそれぞれ *C. megastomus* と *C. maldivensis* の新参異名であることを示す。*C. megastomus* と *C. maldivensis* 間の塩基置換率は  $2.85 \pm 0.63\%$  であり同属異種間レベルであった。分子系統学的検討によって *Thalassenchelys* 属はノコバウナギ科 (Serrivomeridae) やフサアナゴ科 (Colocongridae) に属すると推定されたことがあるが、アナゴ科 (Congridae) に属するものと考えられる。